

ボードゲーム好きにおくるチョイ読みペーパー

メビテン!

mebiten.jp

進化する Spiel 旅
メビウスゲームズ&テンデイズゲームズ合宿だ!
＼イエーイ／

Ich liebe REWE ❤

どうやって調べるの エッセン乗換案内

メビテンさまの
知っていたら役に立つかも!?エッセンこぼれ話

インターナシップエッセン体験記

メビテン！歌会始

まつながのふりかえりコラム

2025.01
TAKE FREE

vol.22

メビウスゲームズ&テンディーズゲームズ合宿だ!!

2003年にEssen Spielデビューを果たし2014年には「メビウスママのエッセンシュピールガイドブック」を出版したメビウスママ。行けない年もありましたが長年Essen Spielを体験してきたメビウスママが年々変化するSpiel旅をメビテン!メンバーと一緒にまとめてみました! チョイ読みメビテン! 読者の皆さん必見の情報です。

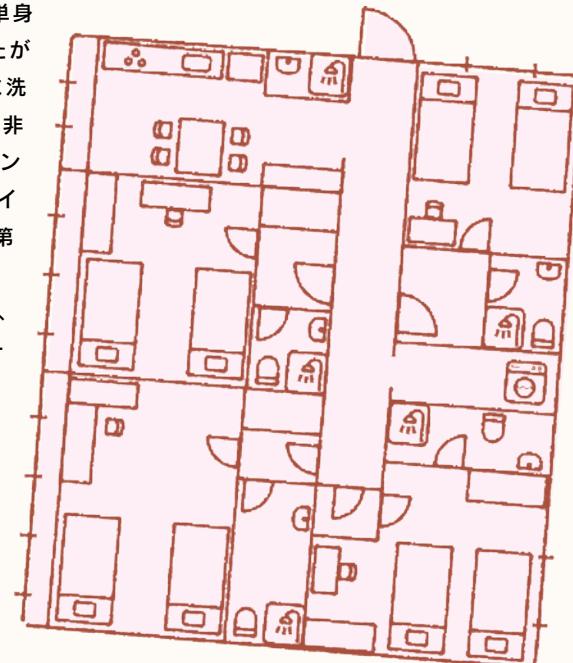
Essen Spielに行こう! と思うと航空券と宿泊場所をまず押さえるところから始まりますが今回は宿泊に焦点を絞って体験談を綴っていきます。

コロナ以降世界の物価上昇に伴い宿泊費が基本的に高くなっているところにSpiel開催時期はさらに高くなっています。そこでメビテン! チームは昨年からアパートメント滞在を選択しています。アパートメントってどんな感じ? ここで説明しますね。

ざっくりいうと、日本のマンションの1室を借りる感じです。住むような滞在が可能です。2024年のメンバーは夫婦2組単身者2人の6人です。ベットルームが4室(各室ツイン仕様、洗面台・シャワー・トイレ有)ダイニングキッチンにランドリー室がありました。ベッドルームは各室20平米から35平米ほどの広さでした。夫婦は広めのお部屋を単身者は小さめの部屋をそれぞれ使用しましたが十分なサイズでした。そして何より各室に洗面台・シャワー・トイレが付いていたことは非常に助かりました。少々残念なことはリビングの役割をするダイニングキッチンのダイニングが狭かった事、でもそれは工夫次第です。キッチンがあると自炊もできます。

地元のスーパーで食材を買い、調理し、わいわい食事するのも楽しいですよ。スーパーでの楽しいお買い物編は後ほどね。2024年メビテン! チームはSpiel開催2日前10月1日チェックインSpiel閉会翌日10月7日チェックアウト6泊7日でEur920(¥153,079)でした。

来年も利用したいと思い問い合わせましたが、既にSpiel開催期間は満室とのことでした。



進化するSpiel旅

\イエーイ/



アパートメントは町の中心地よりちょっと郊外にあるのが多いです。メビテン! チームが宿泊したアパートメントはエッセン市の隣ミュールハイム市(Mülheim an der Ruhr)でした。

Uバーン、トラムの路線図をメビウスママは必ず手持ちします。現地の公共交通の様子を理解することも大きなポイントです。また公共交通に加えタクシーも便利です。ただし流しのタクシーは基本無いのでターミナル駅などのタクシー乗り場で利用する、もしくは予約をして利用します。今回メビウス3人はメーカーとの懇談・会食を終えて21時ごろトラム103に乗って帰路にありました。ところがベルリナープラツの次の駅でいきなり「アクシデント!」と言って乗客全員が降ろされました。ええ~~ でも現地の人達は黙ってそれに従つてバス停に向かいますが降ろされた駅はただの野原、どのバスに乗れば宿に帰れるか? メビウス3人が選んだのは逆方向のトラムに乗って中央駅に向かう事! そして迷うことなくタクシーを選択しました。Spielでの日々というより海外では体力を温存が大事なのです。無事22時には宿に帰着していました。

タクシー料金

エッセン中央駅 ⇒ アパートメント (所要時間10分強~15分弱)
普通車4人乗り 28€~30€ + チップ2€
大型6人乗り 32€ + チップ3€
アパートメント ⇒ メッセ会場 (所要時間10分)
大型6人乗り 28€ + チップ2€
デュッセルドルフ空港 ⇒ アパートメント (所要時間30分弱)
大型6人乗り 90€ チップ + 10€

近年Essen Spielの来場者は増加の一途です。

2018年に4日間の開催期間に190,000人の来場がありました翌2019年は209,000人、世界中がコロナ禍という不運に見舞われますが2023年193,000人、2024年は204,000人と公表されています。この来場者数はエッセンという町のキャパシティを超えているという意見も聞こえてきます。ボードゲームの聖地であり最新情報を得て体感できるSpielですが、日本から参戦するためには為替事情、現地の物価、現地の交通ルールなど事前に情報を得ておくことが肝要と思います。

Ich liebe REWE ♥

アイ ラブ レーベ ♥

アパートメントでの楽しみの一つとして、簡単な調理もできるためスーパーマーケットに行きあれやこれやと好きなお買い物ができることが挙げられます。数あるスーパーマーケットの中でも、毎年エッセンでの宿を決めるときに近くにあるかをチェックするくらい大好きなスーパーマーケット「REWE」(レーべ)があります。

この「REWE」なんとSDJの受賞者なのです!ボードゲーマーが思い浮かべるSDJはもちろん「Spiel des Jahres」ドイツ年間ゲーム大賞ですが、こちらは「Supermarkt des Jahres」ドイツ年間スーパー大賞ということになるのでしょうか。ドイツの食品小売業界の業界誌とヨーロッパ最大の食品雑誌が共同で開催しているコンペティションで販売面積とチェーンストア、自営業者などの区別でカテゴライズされていて2023年は4部門中2部門をREWEが受賞しています。すごいですね。

そんなREWEの魅力として、まずはプライベートブランドが充実しています。

比較的安い価格の「ja!」シリーズ、ベストチョイスの意味「REWE Beste Wahl」、オーガニック路線の「REWE Bio」といったオリジナルブランドが幅広くあるところです。



ハムやチーズなど、とにかく種類が多い上に正直どのブランドが美味しいかわからないので、この「ja!」を目印に貰うとリーズナブルで美味しいものが多いと思っています。

そして、REWEにはこの時期(9月～10月)しか飲めない発酵途中のワイン、フェダーヴァイザーがあります。まるでジュースのような口当たりのですが、すっきりとした甘味ですいすい飲めちゃうアルコール度数もあるワインです。

このワインを買う際には注意が必要です。まだ発酵の途中なので、フタが完全に閉められた状態で売っていません。横倒しに置くと中身が出てきてしまいます。

ドイツのスーパーのレジは日本とは違ったシステムです。流れるベルトコンベアの上に自分でカードから商品を出して乗せ、それを店員さんがバーコードを読み込みその先にポイポイ置いていくので、そちら側にまわり自分でエコバッグに詰め込みつつお会計をします。普段はその置き方もわりと適当な感じのですが、このフェダーヴァイザーのときはさすがにレジの店員さんも「横にしないでね。」(多分そう言ったと思う)言いながら丁寧に置いてくれるので、こちらも「大丈夫ですよ。」という顔でニッコリしながらななずきます。

また「REWE To Go」という、コンビニ寄りの形態のお店もあります。ここは店舗自体は小さいのですがサンドイッチ、サラダボウル、カットフルーツ、ジュース、お寿司(これは日本人としてはあまりお勧めしない味でした)など買ってそのまま食べられるようなものを売っている手軽な感じのお店です。ドイツのスーパーマーケットは日曜日は基本的に休みなのですが、ここは日曜日も営業しているのでいざという時に近くにあると便利です。

「せっかくのエッセン! ドイツ! 美味しいものを素敵なお店で楽しむぞ!」と思っている人も多いかもしれません。

それもまた旅の楽しみであることに違いありません。しかし、その一方で、「現地の人が普段の暮らしの中でどんなお店でどんな買い物をしているのか」、そんなことに思いを馳せるのもまた旅の醍醐味だと思うのです。

それを手軽に楽しめるREWE。チェックしない手はないですよ。

やつて調べる
む?

エッセン乗換案内



エッセンに滞在するにあたり、交通事情が気になる人も少なくないのではないでしょうか。乗り換え情報をチェックしたいという時におススメの方法をここでご紹介したいと思います。

「Ruhrbahn fahrplan」で検索すると「Fahrplan für Essen - Ruhrbahn」というサイトが表示されます。エッセンのあるルール地方の乗り換え情報に特化したサイトです。

鉄道、tram、バスといった公共の交通機関を一度にチェックできるのです。

現地にいることを前提としたサービスではないので、ドイツ出発前の日本にいる間から落ち着いて、しっかり調べることもできます。残念ながら、日本語には対応していませんが、機械翻訳と組み合わせれば、十分に使うことはできると思います。宿泊施設を探すときにも参考にするといいかもしれません。

慣れない土地だからこそ、活用したいですね。



知っていたら役に立つかも!? エッセンこぼれ話

メビテン! チームは、この二年ほど、アパートメントタイプの宿泊施設を利用したんじゃが、その時に困った話をしておこうかのう。

それは、キッチンのIHクッキングヒーターと洗濯機がなかなか使えないといったことじゃ。壊れているんじゃないけど慌てたのだが、なんのことない、どちらも子どもが誤って利用しないようにするためのチャイルドロックが掛かっておったのじゃ。

解除すればいいだけなんじゃが、安全装置なだけに、簡単に解除できないようにちょっとした操作が必要でのう。ネットを調べたり、管理人さんに聞いたりすれば、操作はすぐわかるのじゃが、面食らってしまうかもしれません。もし、アパートメントタイプに泊まるようなら、思い出してみてください。



来場者の増加もあり、ホテル料金は高くなる一方……そんな中、エッセンにどのように滞在するかは悩ましい点かもしれません。

メビテン! チームも、少しでもエッセン滞在が楽しくなるようにいろいろ考えながら計画を立てています。

みなさんも、もしエッセンに行くようなら、いろいろ計画を立てるところから楽しんでみてください。

インクーリンセシング体験記 エッセン体験記



東大ボドゲサークルWeeple(以下、Weeple)の代表を務めておりまます清水です。このたび、株式会社Engamesの学生イン

ターンとして、ドイツで開催される世界最大のボードゲームイベント「エッセンシュピール」(以下、エッセン)に参加する貴重な機会をいただきました。もともとEngamesのボードゲームカフェを利用させていただっていたご縁がきっかけで、「学生インターンと一緒にエッセンに行きたい」というご提案をいただき、今回の挑戦が実現しました。

エッセンは初めての参加だったため、不安と期待で胸がいっぱいの状態で当日を迎えました。しかし、現地では共同出展した日本の方々に多く助けていただき、ヨーロッパのボードゲーム文化を間近で知ることができ、非常に貴重な体験となりました。

今年のエッセンで、Engamesの目的は新作ボードゲーム『スノープランナー』の海外リテール先を探すことでした。私もその一員として、ブース設営や試遊卓でのルール説明(インスト)、さらにはEngamesの商談に同席するなど、多岐にわたる業務を担当しました。

英語でのルール説明や、海外のボードゲーム市場に関わる商談に参加するの初めての経験でした。初めは緊張の連



続で疲れることも多かったのですが、その中で海外と日本のボードゲームイベントの違いや、ビジネスの実情について多くのことを学ぶことができました。

この記事では、エッセンと日本の違いを中心に、私が感じたことを紹介したいと思います。

エッセンで最も印象に残ったのは、「エッセンは〈遊ぶ〉イベント」であるということです。試遊卓が広く設けられており、2~3時間の重めのゲームであっても、来場者はじっくり腰を据えて遊びます。私自身、「せっかく多くのゲームが集まる場で、同じゲームに2時間も使うなんて時間がもったいないのでは?」と思ったほどですが、エッセンに来る人々は「買うこと」ではなく「遊ぶこと」を目的としています。実際に遊んで気に入れば購入し、満足すれば「楽しかった!」とその場を後にします。事前に下調べをして、開場と同時に目当てのゲームを購

入する人もいますが、家族連れや友人同士でゲームをエッセンに遊びに来ているという雰囲気を感じました。このボドゲ愛を感じられる雰囲気が、エッセンならではの魅力です。

一方、ゲームマーケット(以下ゲムマ)は「買う」要素が強いイベントだと感じます。ゲムマではテーブルに並べられたゲームについて出展者が説明を行い、購入するかどうかを検討するスタイルが主流です。試遊スペースを設ける出展者もいますが、重めのゲームをじっくりプレイするよりも、短時間で概要を聞いて購入する方が多い印象です。また、ゲムマにはその日しか手に入らない同人ゲームが多数出展されることも、購入意欲を高めている要因と言えるでしょう。正直なところ、エッセンでは会場を回っていると一人だけで試遊卓に座るのは難しく、限られた予算で買って帰るボドゲを見つけるのが大変でした。また、ダンボール箱いっぱいにボドゲを購入し、自分で持ち帰ることを諦めて郵送している日本からの出展者さんたちも印象的でした。

実際、今回のエッセンで自分が購入したのは、CHARTERED, AI Space Puzzle, Power Vacuumの三つです。CHARTEREDはアムステルダムの街で会社を育てるというゲームで立体に街が広がっていく様子が面白くて購入しました。AI Space Puzzleは協力ゲームでパズルを用いてコミュニケーションを試み、ミッションを達成していくゲームです。Power Vacuumはお互いに電気パワーを奪い合い、共闘と賭け要素が加わったトリックテイキングゲームです。実際に日本に帰ってサークルメンバーと遊んだ中では自分はPower Vacuumが一番お気に入りでした。ただ、英語のルールブックを読み理解するのにみんな一番苦労していました。



自分は中量級のものを中心にみていましたが、重めのゲームが多く、会場の最初の入り口エリアには重めのゲームが集められていました。お昼頃には、身動きがと

れないほどに混んでおり、一番活気にあふれています。もちろん、子ども向けやパーティーゲームもありますが、全体的にはしっかり遊び込むタイプのゲームが目立ちます。

こういったボドゲ文化の違いをみて、日本の同人文化としての特徴を感じました。ゲムマでは、同人サークルが多数出展しており、出展費用が比較的安いこともあって、趣味の延長で活動する人々が主役となっています。そのため、ゲムマではその日限定の作品や少量生産のゲームが多く、現地で〈買う〉ことが非常に重要となります。一方、エッセンでは、基本的にボードゲームの出版社しか出展できないそうです。そのため、試遊卓も十分にスペースをとることができ、重量級のゲームでも思う存分に〈遊ぶ〉ことができます。しかし、その裏では、ゲームデザイナーや出版社が海外での出版や日本への流通の商談をしています。自分もいくつか出版社からスノープランナーについて尋ねられたり、商談に参加させてもらいました。こういった場でのグローバルなビジネスを通して、消費者にさまざまなボードゲームを届けられているのだと知ることができました。

今回のエッセン参加を通じて、ボードゲーム文化の違いや、ボードゲームを取り巻くグローバルな市場について多くを学びました。老若男女が心から楽しむエッセンも、製作者との近さや同人文化を特徴とするゲムマも、どちらもそれぞれの魅力があります。次はフランスの「カンヌ国際ゲーム祭」も訪れてみたいですね!



東大ボドゲサークルWeepleを紹介!

東京大学の学生を中心活動するボードゲームサークル。2023年に設立されたサークルにも関わらず、一年間で加入メンバーは140人超え! 普段の活動ではメンバーが持ち寄ったボードゲームをプレイしたり、リーグ戦でボドゲ大会を行ったりしています。また、新しいボードゲームの制作にも勤しみ、ゲームマーケットや学園祭での販売に向けて活動しています。今年は「Triangle Connector」というアブストラクトゲームをゲームマーケットで販売しました。

ボタニクス

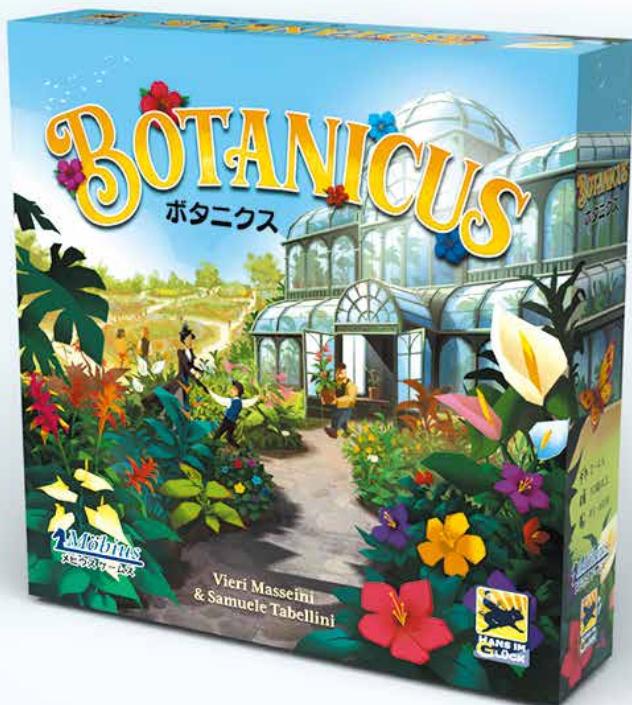
2~4人 45~60分 10歳~ 8,500円(予価) 2025年2月発売予定

デザイナー: Vieri Masseini & Samuele Tabellini メーカー: Hans im Glück

2024年のドイツ年間ゲーム大賞の推薦リストに入ったゲームです。

自分の植物園を美しく、そしてより来園者のニーズに沿ったものにするゲームです。庭師を雇い美しい植物を植えて・育てさせましょう。ただし、あなたの植物園に来園されるお客様方は、どこで何を鑑賞したいのか、明確な考えを持っています。そのニーズに応えることで、素晴らしい植物園にしましょう。

また、このゲームは基本ゲームのほかにエキスパートゲームが入っています。基本的なルールはそのままに、追加のルール等が入ることで、より歯ごたえのゲームとなっています。



フリテンくんカードゲーム

3~4人 30分 10歳~ 2,530円(税込)

デザイナー: Günter Burkhardt メーカー: テンディズゲームズ

© 植田まさし／竹書房
Willi-Japanese © Günter Burkhardt, TendaysGames 2024

植田まさし先生による人気キャラクター「フリテンくん」がカードゲームになりました。

カード一枚ずつ出しての強さ比べとその結果によるカード獲得(トリック獲得)を行う「トリックテイキングゲーム」なのですが、カードの強さと関係なく「フリテンくん！」と宣言すればカードが取れてしまうのがユニークなところ。

ハンスイムグリュック社から発売されていたギュンター・ブルクハルトによる「ウィリー」の日本版でもあるのですが、「ウィリー」のカードに描かれていた日常のワンシーンが、「フリテンくん」の日常に置き換えられ、「ウィリー」のテイストを保つつ、日本ならではの作品になっています。「ウィリー」テイストがどのように活かされているのか、ゲームマニアならニヤリとするはずです。



● テンディズゲームズは2025年、三鷹に店舗をオープンしてから15周年を迎えます！

そんなアニバーサリイヤーを彩る企画を計画中！

● テンディズゲームズとみなさんで、ぜひ、楽しい一年にしたいと思います。

負けたことをネガティブに捉えず次のゲームを選ぶのに繋げるのがお茶目でいい。

転職だニムトで大敗 牛の山
今から私は酪農家です

必死のプレイから、「関所か君は」の思わず言つてしまいそうな言葉で締めるのがゆるくもあってユニーク。

たのみます 祈る気持ちで 出す手札
通す通さぬ 関所か君は

世の中は サイコロの目の 運次第
神様もきっと ボードゲーム

ボードゲームといえばルール。世界のルールを作った神を身近な存在としてるのが短歌によくなじんでいる。

メビテン！歌会始

新年に相応しいことをやろうとメビテン！チームでボードゲームをテーマにした短歌を詠んでみたぞ。ボードゲーム短歌を集めた同人誌も発行しているやぎのさんの選評付きで紹介するぞい。

まつながのふりかえりコラム

こんにちは、まつながです。

2025年が始まりましたね。どんな1年にしましょうか。

エッセンに今回もたくさん的人が日本から旅立ちました。
円安で躊躇している方も多いかもしれませんが、
アパートメントなどの新しい滞在方法もありますので、
2025年はチャレンジしてみるのもいいかもしれません。

今回のメビテンで、初めて短歌にチャレンジしました。
ボードゲームをしていると心が揺さぶられることが多いのですが、
表現することというのは少し照れてしまうものですね。

私も短歌を作りたい！という方は、
57577(ゴーシチゴーシチシチ)といった
単語を並べて短歌を作るボードゲームもおすすめです。

今年もたくさんの新しいことにチャレンジしていきたいですね。
体を大切にしつつ、1年間楽しんでいきましょう！

まつなが
(松永 彩)



ボードゲーム専門の総合情報サイト、
ボドゲーマの管理人。
ボドゲ特化クラファンのボドファンも運営中。
bodoge.hobby.net

編集後記

実はメビテン！メンバーが詠んだ短歌はまだまだあります。webサイトにアップしますので覗いてみてください。
「メビテン！」を置いていただけるお店を募集しています。

mebiten.jp

✉ mebitengames@gmail.com

𝕏 @mebitengames

編集:メビウスゲームズ、テンディズゲームズ、長塚美奈子
本書の無断転載・複写ご遠慮ください。



やぎの
X(旧Twitter)で、ボードゲームで遊んだ記憶を、いろんな形で
文字にしています。遊んだ記憶を短歌にするのが好きです。

